

群馬県グループホーム ポピーの家 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で生活されている方のレベルに応じ訪問介護サービス・通所介護サービスを提供すると共に、自宅では介護困難となった際にはグループホーム入居といった、その人らしく生活できるよう、地域で暮らしを支える体制作りをしている。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の大切さと、それに基づいた実践について日々話し合っているが、十分とは言えない。	○	「理念」についての各職員の理解・共有にむけて、再確認する場が少ないため、ミーティングなどを活用し、わかりやすく実践しやすい形での再確認を定期的に行っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来所時、定例の運営会議等を通し理念の浸透を心がけている。	○	随時、意見を伺い取り入れて行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りお茶を飲まれたり、季節の野菜を収穫時期に届けてもらえる等、交流は日常的に行われている	隣近所への挨拶は心がけている。また気軽に立ち寄りお茶を飲まれたり、季節の野菜を収穫時期に届けてもらえる等、交流は日常的に行われている。	○	今後も隣近所に認識され、相談や介護援助、アドバイスのできる施設として頼られるよう努めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板・町内の定期会合への参加、年中行事への参加等、できる限り隣近所への付き合い、交流への努力をしている。	○	これまで通り、町内会行事参加、地域の伝統、慣わし等の行事参加をすすめ地元との交流を継続したい。(紗綾市・えびす講・桐生まつり等)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の利用者・職員が多いため、これまでの生活を継続でき、馴染み生活ができるよう支援している。月1回の定期会議でそれぞれの入居者の変化に合わせた変更を行い、支援継続への努力をしている。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解し、評価結果を共有し、改善すべき点等再確認している。	○	職員の人員変動もあり、評価結果を、わかりやすく職員へ伝え継続して生かしていけるよう、業務改善なども検討して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的に運営推進会議を行っており、そこでの意見をサービス向上に生かしている。	○	すべての職員が、運営推進会議の意義・重要性を認識しているとは言えないため、今後は会議結果を十分浸透させていきたい。(同じメンバーの参加となりがち)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談・意見交換等、市町村担当と今後も、サービス向上に取り組む機会を作りたい。	○	会議以外には機会がないため今後は市町村との連携を図りサービス向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や学習会により各職員が十分権利擁護に関して理解できるよう機会を作り必要な人には支援する努力をしている。	○	各職員への学習への機会作り。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への理解・認識を深め、利用者がその人らしく、快適に過ごせる生活支援をすると共に、虐待への注意・防止ができる判断力が持てるよう、日々意識確認したり、学習の機会を作っている。	○	研修での各職員に意識改革、虐待を気づくことのできる職員教育を継続したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき十分な説明と理解・納得を図っている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情相合苦情対応へのマニュアルはできている。外部者への相談・機会も必要に応じ支援している。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や定期的な運営推進会議など、個々の変化に合わせた電話連絡等で家族への連絡・報告は密にしている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各職員が、家族からの意見・要望など記録・も申し送ることで業務改善等に反映させている。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で行っている。また、個人的に相談等も行っている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の都合による急な入居相談等には早めに対応できる限りの支援をして職員の調整をしている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の病気や怪我のための異動や離職等があったが、利用者のダメージが無いよう他部所から顔馴染みの職員を配置するなどの配慮をしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修・資格取得への配慮・支援している。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回のグループホーム間(桐生市内)の交流研修が実施されている。(レベルアップ研修)	○	平成19年1月に実施したが本年以降も継続していく予定である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々の意見を尊重し、それぞれが相談しやすい環境づくりに努めている。	○	十分とは言えないため、今後も定期会議のほか、個々の相談への支援・体制づくりに心がけたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力・実績にあわせ、力を十分発揮できるよう、勤務調整したり意見を聞いていく。	○	訪問介護・デイサービス・グループホーム等、個々の能力・希望に合わせ支援していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者・家族より十分聞き取りできる機会づくりをしている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	地域住民からの相談が多いため馴染みの関係でもあり、不安や希望を取り入れていくようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業者として、相談者が必要としている支援に合わせたサービスを充分検討し対応している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでの利用者の生活が急変することの無いよう、馴染みの生活を支援できる工夫をしている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のペースに合わせた、生活の支援をし、共に生活できる、ゆとりある環境づくりを目指している。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでも情報を共有し、相談・協力しながら本人を支えていく関係づくりを目指している。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族がゆとりを持って本人と関わり、より良い関係が継続できるよう情報交換している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が気軽に立ち寄れるよう、また、連絡がとれる雰囲気づくりに努めている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々のレベルに応じ、一人ひとりが孤立せずに関わり、支えあえるよう、職員が調整役となり、体制作りをしている。	○	年齢・学歴・生活環境等さまざまな利用者が共有する場であるため、十分とは言えず今後も努力・工夫していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調変化に伴う入院・退所等はあるが、常に連絡をとり、継続的関わりをもてるよう努力している。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方との会話・日々の生活の中で求めているものに対して思いやりを持って支援できるよう心がけている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活暦を十分把握して、限られた環境の中でも満足して生活していただける工夫をしている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェック、体調の変化記録等により安定した暮らしができるよう支援している。 必要時、早めの主治医による診察・治療を受けている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのケアプランの見直し、6ヶ月ごとのプランの立案など、家族の意見も聞き取りながら作成している。	○	プラン結果の報告となっているのが現状であるため、今後は家族と共に立案できる体制づくりをしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調の変化に合わせた計画作成を心がけているが十分とはいえない。	○	定期的計画立案はしているが、急な病状変化・心身の変化にともなう症状に対しての細かいプラン立案を蜜にしているとは言えないため、今後は努力・工夫していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として残している。	○	記録内容がパターン化しているため、個々の変化が十分把握できるような内容に工夫していく必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスなど本人や家族の要望に応じた支援をしている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は運営推進会議に定期参加している。 学生ボランティア(群大生・高校生)・オカリナ・ハーモニカ・おどりなどによる一般ボランティアの慰問。 消防では定期火災非難訓練を実施している。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他者との交流・社会参加の一端として自社のデイサービス活用他、地域との連携で婦人会行事(作品展示など)参加。地域行事として七夕、わたらせ渓谷鉄道等のイベント参加。 推進会議の情報を貴重に受け止めている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは強力なサポートセンターなので必要時は支援を相談し要請する。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り隔週の定期健診及び必要時の早急な診察を受けられるよう支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との相談のうえ、認知症の状態にあわせ専門医の受診を家族と共に行っている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護職を配置し、日常の健康管理や医療連携体制が取れるようにしている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に際しては管理者が立ち会うと共に、家族、病院関係者との情報交換を蜜にしている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化・終末期のあり方については、それぞれの利用者の状況に合わせ、随時、家族・かかりつけ医との相談を行っている。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重症化・終末期におけるチームでの支援については、できる事、できない事の支援の見極めはしているが、現在、事例がないため十分とは言えない。	○	今後、利用者の高齢化・重症化が考えられるため、変化に備えた検討をして、改善できる点・対応困難なケースの対応などチームとしての支援体制づくりをしていかなければならない。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院による退所はあるが、住み替えのケースは今のところない。今後は住み替えのケースにも対応できるよう体制を整えたい。	○	退去にあたっては家族と常に十分な情報交換を心がけている。これは今後も継続したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーの確保のため、言葉づかい・対応には注意しているが、職員のレベルに差があり十分とは言えない。個人情報保護は徹底している。	○ 一人ひとりの思いやりを持った対応が職員全員で同じようにできる体制づくりをしていく必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いを受け止め、本人が決めてできる事は自分で継続していけるよう、ゆとりを持った態度で接していけるよう努めている。	○ 待つゆとりがなく、業務優先になることも多いため注意する必要あり。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか利用者の満足のいくペースになれず、日課にそったケアになりがちなため工夫が必要。	○ 待つゆとりがなく、業務優先になることも多いため注意する必要あり。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節や好みに合わせた支援をしている。理・美容店は近隣の店を利用。馴染みになっている。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いや、レベルに応じた食事を提供。利用者と職員と一緒に食事をして、準備・片付けもしている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好に合わせた支援を心がけているが、今のところは、酒・たばこの希望はない。	○ 希望があれば対応し、安全管理・健康管理と合わせて支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パット・リハビリパンツ・おむつを各々の排泄パターンに合わせて支援している。日中はできる限り、トイレ誘導し、自力での排泄を促し習慣づけできる支援をしている。	○	なるべく、おむつに頼らず自力排泄の習慣が継続できるよう支援は続けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせた入浴支援つも心がけているがデイサービス利用のため、限られた曜日・時間帯になってしまうことが多い。	○	グループホーム内にも浴室があるため、日曜日・お盆・正月等、長期の休みのときは、希望に応じ支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調も配慮し安心して良眠できる支援をしている。		眠剤等に頼ることのないよう配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の得意な面を生かし、家事作業等の役割が持て、自信の回復、レク活動での楽しみごと、気晴らしを支援している。	○	季節や体調に合わせた外出支援等行っているが、業務優先のこともあり、十分とは言えないため、検討していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設管理としているが、本人・家族の希望に応じ支援している。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	デイサービス利用のため、ほぼ毎日外出しており、気分転換になっている。他に希望時は家族の協力も得て支援している。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	歌やおどり・観劇のためコンサートホールに出かけたり、七夕まつりでの七夕かざり作りに参加したり等、支援している。過去にわたらせ渓谷鉄道での列車の旅も家族とともに体験した。	○	今後も家族の協力を得ながら、利用者の生きがいへの支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日常的に近隣の方の訪問・家族の来所がある。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践については理解しているが、2階の出入り口に関しては階段に面していることもあり、職員の目の届かない場合など家族等に説明、納得の上、施錠している。	○	安全確保・事故防止のため説明のうえ2階は施錠しているが、鍵をかけない工夫も検討していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が、常時、利用者の居場所の確認・安全配慮している。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の馴染みの物品は危険のないよう配慮しながら本人の手元においている。今のところ、大きな危険を招く物はない。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的火災訓練(消防立会い)は実施している。救命講習は過去に管理者が参加したが職員全員の受講はない。	○	救命講習を職員全員で受講し、終了証を持てるようにしていきたい。施設内の事例にそった定期的学習会を実施したり研修への参加を検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的には行っていない。	○	今後は急変・事故発生への早急な対応が全ての職員が可能となるよう定期的訓練を計画したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難場所は確保されている。家族会の方の協力も得ている。	○	家族会、職員の連絡網がまだなので、最新のものを早急に作りたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調変化・認知症の重度化に合わせ、随時家族に説明している。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、言動等からの異変の早期発見に努め、申し送りにより情報を共有している。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに服用している薬の説明書きを閉じている。症状に応じて処方された薬に関しては、申し送りにより症状変化の確認に努めている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便のサイクルを周知し、水分補給・運動の勧め・食材の工夫に努めている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、支援している。	○	個々の能力に応じ支援しているが、汚染確認が十分とは言えないので今後徹底したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	配食により栄養管理されている。食事量もチェック表により管理している。必要時、体調に合わせた捕食をしている。	○	水分をなかなか摂ってくれない利用者もおり、水分補給の工夫が必要。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	インフルエンザ・ノロウイルス等、当施設で発生したものについてのファイルはあるが、感染症(すべての)マニュアルはない。	○	すべての感染症についてのマニュアル作りに努力する。
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	配食による安全な食材の提供がされている。台所・調理場は定期的に除菌し衛生管理に努めている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	玄関はスロープでの安全を配慮している。家庭的な玄関であり、常時開放し自由に出入りできるようにしている。	○	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節に合わせた花を飾ったり、年中行事に合わせた食堂の飾りつけなどを行っている。	○	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	1階が台所、食堂、2階が各利用者の居室となっているが、どちらにも共用空間が十分にある。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が各々使い慣れたもの、好みのものを持ち込んでいる。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には十分配慮している。 空調は気温・体調にあわせ、エアコン・床暖房と併用している。	○	トイレの利用の頻度が多いため換気が十分とは言えない事があり注意していく。(共有スペースの中央にトイレが配置されているため)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要なところへの手すりの設置、階段を利用できない利用者のためのエレベーターを設置。便座等の使い勝手の工夫・物干しの高さの調整など工夫している。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋には各利用者のネーム・写真入りの手作りの表札をかけた。トイレの目印をつけている。 各部屋には時計や暦を設置している。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	以前は駐車場スペースがあり、それを利用し食事を楽しんだり、鉢植えの花の手入れ、庭掃除等をしていたが、スペースがなくなったこと、利用者が重度化したこと等から活動が減少した。	○	日曜日には天候にあわせ外出支援を継続したい。地域にある公園・神社散策・小学校行事見学・買い物ツアーなど行っていた。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)